

北大生スパイ冤罪事件

宮沢さん命日「忘れない」誓う

戦中にいわれのないスパイ容疑で逮捕された元北海道帝国大学生、宮沢弘幸さんが釈放後に27歳で死去した2月22日、北大の卒業生やゆかりの人たち約50人が、東京都新宿区西新宿7の常田寺にある墓を訪れ「受難を忘れない」と誓い合った。

宮沢さんは日米開戦当日の1941年12月8日、英語講師だった

東京・新宿

レオン夫妻の官舎を訪ねた際に、札幌市で特高警察に逮捕された。旅行中に見た海軍飛行場の様子を夫妻に話したことがスパイ行為とみなされたとされる。だが、飛行場の様子は当時すでに広く知られており、逮捕は軍機保護法の拡大解釈だった。宮沢さんは懲役15年の判決を受け、戦後に釈放されたが、服役中にかかった結核の影響で、47年2月22日に

早世した。

参加者は墓参後に「事件を考える集い」を開催。治安維持法に詳しい荻野富士夫・小樽商科大名誉教授が戦前の思想統制や教育統制の流れを語り、スパイ冤罪事件が起きた時代背景を解説した。
【伊藤直孝】



宮沢弘幸さんの墓を訪れた関係者ら―東京都新宿区で